

## 技術分野 「システムと情報」系修得

工学部 材料開発工学科 4年 上坂 正吾

私は、副専攻として第4分野の「システムと情報」系を修得しました。福井大学に入学する前に、副専攻制度の存在とこの制度が福井大学独自の制度であることを知っていたので、入学当初から副専攻を修得したいと考えていました。「システムと情報」系を選択したのは、1年生の頃に学んだ情報処理の授業でパソコンやプログラムに興味を抱いたのと、今の社会は情報化社会であるので多くの情報を取捨選択して生活していくための勉強ができるのではないかと思ったからです。この系を受講してみてパソコンがどのように計算処理しているか、計算アルゴリズム、携帯電話の通信技術の発展、電力システムがどのように成り立っているか、といったことを学ぶことができました。

私の場合、副専攻制度によって同一系の科目を集中して履修していました。いろいろな系の科目をばらばらに履修するよりも、同一系の科目を集中して履修することにより、同一系の他の科目で学習した内容を再び学習することができました。そうすることによって、他学科の学問で抵抗がありましたが、着実に理解が深まっていったように思います。

共通教育を終えて、私なりに感じた問題点を述べさせていただければ、A群は共通教養の授業であるので第1分野から第3分野の科目は理系の学生に、第4、5分野の科目は文系の学生にも配慮した授業となっていて、基本的な内容に留まってしまった科目も多少あったように思えることです。もちろん、専門性の高い素晴らしい授業はたくさんあります。しかし、上記のような科目ももう少し専門性の高い授業内容にしていただければ、副専攻の価値もより高くなるのではないかと思います。また、共通教養であるA群と専門教育であるB群が同じ単位数で副専攻が修得できるというのもおかしいと思います。本来ならば専門教育のB群を規定単位数履修した人にだけ「副専攻」を認定するべきなのではないかと思います。改善は難しいものがありますが、福井大学の独自の制度である副専攻がさらに充実すると、それを修得した学生の一つの武器になっていくと思います。